

平成30年度「学校安全総合支援事業」全国成果発表会

# 【中核教員の資質向上に関する 取り組みについて】



平成31年1月31日（木）

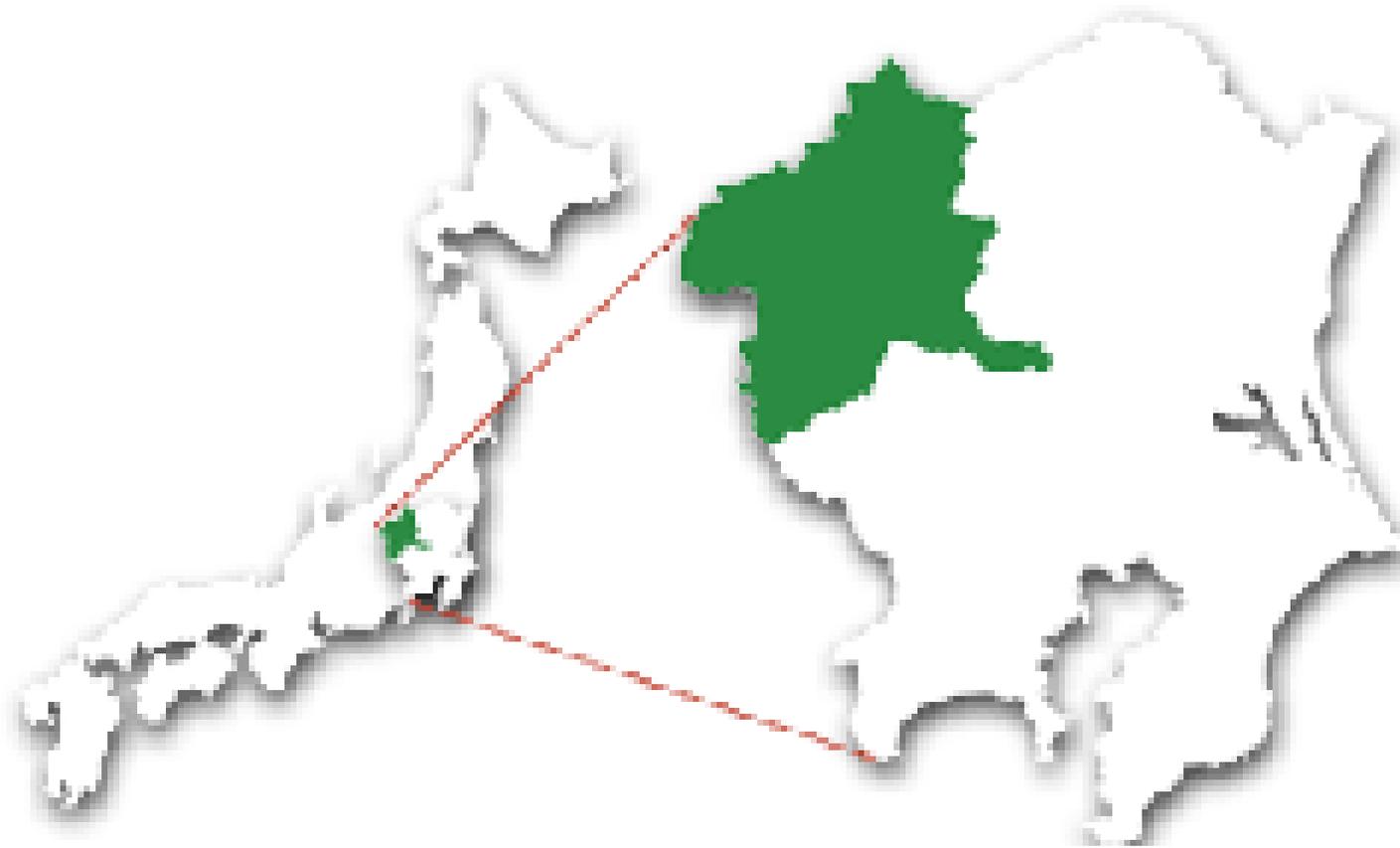
群馬県教育委員会

# 群馬県の概要

本県は、日本列島のほぼ中央にあって、県西・県北の県境には山々が連なり、南東部には関東平野が開ける内陸県です。面積は約6362平方キロメートルで、その大きさは全国で21番目、関東地方では栃木県につぐ2番目です。県土の約6割が森林に覆われています。

南部に平坦地が広がり、西部や北部に山地が多い群馬県では、地域によって気候が異なります。

平野部は、太平洋型の気候に加え、内陸であるため、夏はとても暑くなります。強い日差しで温められた空気が山を上がって雷雲となるため、雷が多いことも特徴的です。冬は、日本海側で雪を降らす湿った雲が、県北の山を越えることで「空っ風」という冷たく乾燥した強い季節風が吹きます。



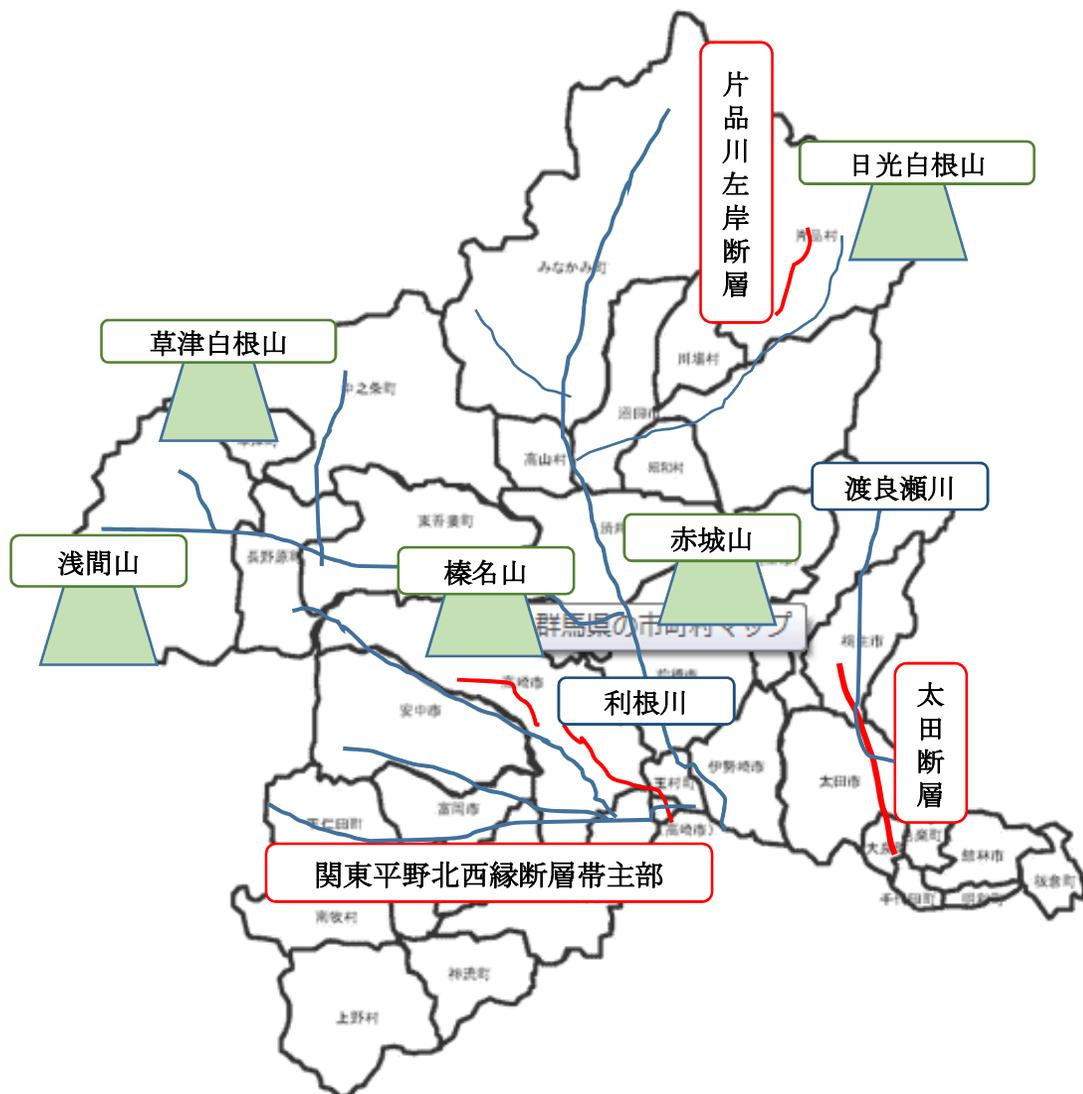
人口・・・196万人

市町村数・・・35市町村

公立学校数・・・小学校306校、中学校160校

高校68校、特別支援学校25校

# 群馬県の想定される災害



## 県内の大規模な地震が想定される活断層

- ・ 関東平野北西縁断層帯主部による地震 M=8.1
- ・ 太田断層による地震 M=7.1
- ・ 片品川左岸断層による地震 M=7.0

## 県内の活火山である噴火警戒レベル対象火山

- ・ 草津白根山 噴火警戒レベル2
- ・ 浅間山 噴火警戒レベル1
- ・ 日光白根山 噴火警戒レベル1
- ・ 榛名山、赤城山 噴火警戒レベルなし

## 県内の大規模洪水が想定される河川

- ・ 利根川水系（県内の99%）
- ・ 渡良瀬川

# 群馬県の自然災害

## 【大規模な災害】

- 1783年 浅間山の大噴火 死者477人
- 1931年 西埼玉地震 高崎（震度6）、前橋（震度5弱）
- 1947年 カスリーン台風 河川の氾濫等で死者592人
- 1998年 台風5号 河川の氾濫（利根川水系）
- 2004年 新潟中越地震 県内（震度5弱）
- 2018年 白根草津山噴火 約3,000年振りの噴火 死者1人
- 2018年 群馬県南部を震源とする地震（M=4.7） 県内（震度5弱）



## 【その他の災害】

雷、突風、土砂災害など

# 中核教員の資質向上の取り組み①

学校安全研究協議会（義務）の開催

○気象庁ワークショップ「経験したことのない大雨その時どうする？」



実施日：平成30年5月30日（水）

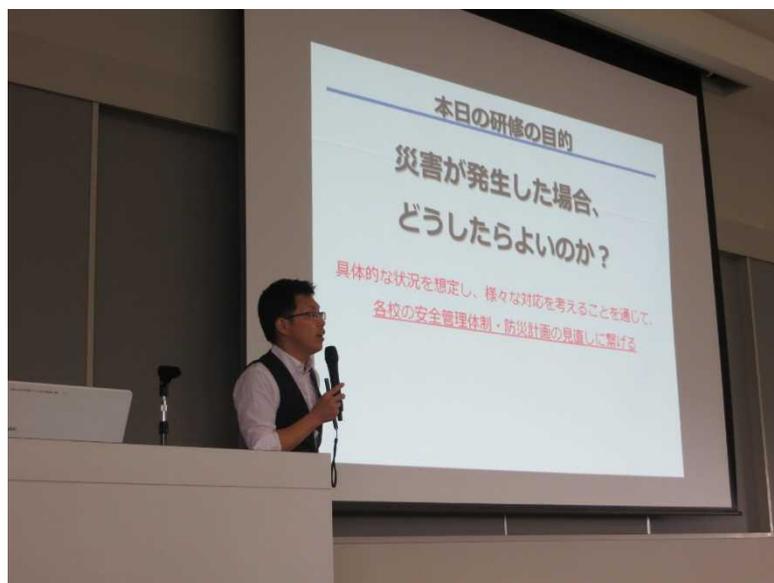
講師：小野 裕子（天気予報士）、前橋地方気象台

受講者：小中学校安全担当教諭180人

# 中核教員の資質向上の取り組み②

学校安全研究協議会（高校）の開催

○防災教育「学校を避難所と想定した訓練(HUG)」



実施日：平成30年6月14日（木）

講師：金井 昌信（群馬大学大学院理工学府准教授）

受講者：公立高校・特別支援学校安全担当教諭 103人

# 中核教員の資質向上の取り組み③

スクールセイフティー開催（利根教育事務所）

○学校（園）における効果的な安全教育の在り方

実施日：平成30年6月22日（金）

講師：成迫 俊美（日本交通安全教育普及協会）

受講者：管内小中安全担当教諭 37人



スクールセイフティー開催（東部教育事務所）

○学校安全に関する校内研修計画の立案について

実施日：平成30年8月10日（金）

班別協議

受講者：管内小中安全担当教諭 146人



# 中核教員の資質向上の取り組み④ (交通)

交通安全指導対策協議会の開催

## ○交通安全指導者養成講習会

ホンダの自転車安全運転マニュアルを活用した参加・体験型講習会

実施日：平成30年4月26日（木）

講師：本田技研工業株式会社

受講者：公立高校交通担当教諭 84人

## ○群馬サイクルサミット

教習所と連携した危険な状況の体験と事故を減らすための協議会

実施日：平成30年11月12・19日（月）2回開催

講師：前橋教習所、館林教習所指導員

受講者：高校(私立含)交通担当教諭 78人(生徒も参加)



## 県内学校安全担当教諭の実態

- 県内各学校で学校安全担当教諭を配置している。  
(学校の分掌として配置)
  - ※実情としては、学校安全担当者が配置されているが、学校の安全体制整備や安全管理等は管理職や教務主任、生徒指導主事等の主事・主任が担当している学校が多い。
- 学校安全担当者は、毎年のように変更しており、取り組みが単年で終わってしまう。
  - ※学校安全の研修会を実施しても次年度の取り組みに活かす機会がない。
  - ※研修会で内容をインプットしても残念ながらアウトプットしていない。
- 担当教諭に限らず、県民全体が県内で大規模災害が少ないため、災害に対する認識や危機意識が低い。
  - ※災害による避難のタイミングや避難場所など、災害に対しての備えの意識が低く、学校現場においても危機管理マニュアルはあるが、職員による共通認識や災害時の危機意識は低い。

## 中核教諭の資質向上に向けての課題

- 担当が、**誰になったとしても**学校の取り組みが**継続**して行われるような体制づくりが必要である。  
(特定の教諭だけでなく全ての教諭ができるように学校の体制整備を行う。)
- 職員研修**で、講習会等の内容を自校で実践し、職員間で**振り返り**を行うなど**内容の共有**をすることが必要である。  
(失敗を繰り返しながら、内容を改善していくことが重要である。)
- 地域によって災害などの課題が異なる**ので、学校だけの取り組みだけではなく、保護者、地域、近隣の学校（園）、関係機関など**連携**した取り組みになるよう**協力体制の構築**が必要である。  
(日頃から、色々な場面で関係機関と積極的に連携・協力を図り、周囲との関係づくりを行う。)

ご清聴ありがとうございました。

続いて、学校防災アドバイザー  
群馬大学大学院理工学府**環境創生部門**  
准教授の金井 昌信 先生の発表です。

# 防災教育を支援する際の問題意識 【一研究者の意見】

---

- ✓ 防災学習による多様な学習効果の可能性
- ✓ 未災地における防災教育支援の難しさ
- ✓ 防災教育に関する支援のあり方（方向性）

# 防災学習による多様な学習効果の可能性

---

## ■“防災”を学習題材の一つとらえた実践的地域学習

- ・ 防災学習（≠ “防災”を学ぶ学習） = “防災”**で**学ぶ学習
- ・ 家庭・地域と連携した実践的な防災学習の実践  
（釜石の奇跡、新潟県、三重県、和歌山県、高知県などで支援）

⇒多様な教育効果

（郷土愛、思いやり、自己肯定感、主体性など）

# 未災地における防災教育支援の難しさ

■“未災地” = 防災への関心が低い地域 (⇒やる気低い)

■支援期間終了後、継続しない

・これまでのやり方① 「トップダウン型」

⇒「モデル校に指定したので、よろしく」 (嫌々やらされた)

⇒指定期間をなんとかやり過ごす (続くわけがない)

・これまでのやり方② 「お手盛り型」

⇒ヒト・カネをつぎ込んだ期限付きの手厚い支援 (いろいろやってもらえる)

⇒指定期間後も、これを参考に実践? (できるわけがない)

# 未災地における防災教育支援の難しさ

## ■ 学校現場の根本的な課題「時間がない」

- ・ 防災に関する学習を行うための「時間がない」（授業時間が確保できない）
- ・ 防災に関する学習の準備のための「時間がない」（他にやることが多すぎる）

⇒結局、支援期間のみの実践となってしまうことが少なくない

# 防災教育に関する支援のあり方（方向性）

## ×マニュアル作成、授業・プログラム開発

- ・外部の専門家などが作成したものをモデル校で実践するだけの取り組み

## ×その場かぎりの大規模な（手の込んだ）実践

- ・外部講師による優れた授業実践や講話、大規模な体験型学習)

## ○防災に興味のある教員を育てる【ボトムアップ型】

⇒好きなことなら、時間がなくても頑張れる

## ○今ある活動の有効性・実効性を高める【トップダウン型】

⇒すでに時間は確保されている

# 群馬県における実践紹介

---

- ✓ 平成29年度 群馬県千代田町における実践
- ✓ 平成30年度 群馬県吉岡町における実践
- ✓ まとめ：実践を通じた成果と今後の課題



# 平成29年度 群馬県千代田町における実践

---

## ■各校担当教員との打合せを通じて実践内容を検討

- ・はじめに、**指示**「これをやってほしい」、**提案**「これをやりませんか」、**依頼**「これをやらせてほしい」はないことを伝えた
- ・そのうえで、各校の**現状**（どんなことをしているのか？）、**要望**（どんなことをしたいのか？）、**制約条件**（確保できる授業時間数など）を把握

⇒これを踏まえて、各校の先生方で実践できそうな取り組みを提案

－小学校：『防災マップづくり（水害）』

※町内で内水氾濫を経験したことをきっかけにテーマを決定

－中学校：『避難所設営体験』

※町教委から事前に提案があった

# 平成29年度 群馬県千代田町における実践

## ■小学校の実践『防災マップづくり』

- ・次年度以降も継続して実践してもらうことが目標  
⇒資料は提供するが、実践の手助けはしない  
(指導案の作成は担当教員が主体的に実施)
- ・『防災マップづくり』の内容自体に新規性なし  
⇒地域の水害リスクに関する事前学習  
⇒町歩きを通じた地域の水害危険個所などの洗い出し  
⇒危険個所などを地図にまとめる  
⇒作成した地図の公表(校内発表・掲示、保護者配布)



# 平成29年度 群馬県千代田町における実践

---

## ■ 中学校の実践 『水害避難に関する防災学習』

- ・ 年末になり、実践内容の変更（担当者も交代）
  - ⇒ 専門家による防災講話を中心とした学習  
（テーマは専門家に一任）
- ・ 地域の災害リスクや防災上の課題を踏まえて実践内容を提案
  - ⇒ 水害避難に関する家庭での備えを促すことを目的とした内容  
（事前に生徒・保護者にアンケートをとり、その内容を踏まえて講話を行う）
  - ⇒ 専門家による講話(2時間)の前後に、学校教員による事前事後指導の実施  
（次年度以降も継続してもらえるように、実践に主体的に関与させる）

# 平成29年度 群馬県千代田町における実践

## ■ 中学校の実践 『水害避難に関する防災学習』

- 担当教員による事前指導  
⇒地域の災害リスクを調べて、主体的に授業を実施
- 専門家による講話を踏まえた事後指導  
⇒家庭への波及を意図した活動を取り入れた

1年組番

災害について考えよう

1. 日本に住んでいて、起こりうる災害とはどんなものがあるだろう。

2. 地震が起きると、どんな危険があり、どんな行動をとればよいか。

場所	おこりうる危険	どんな行動をすべきか
自宅		
商業施設（店など）		
エレベーター内		
山		
電車内		

3. 地震のほか、千代田町に住む私たちに起こりうる災害はいろいろあることがわかったが、どんな災害であるにせよ、どんな行動が大事だろうか。また、災害が起こる前に私たちがすべきことは何だろうか。

4. 来週は群馬大学の金井先生が講師としていらっしゃいます。災害や、対策に関することで疑問や教えてもらいたいことはなんだろうか。

1月30日（火）の授業でたくさん学ばせていただきますよう。

事前学習の資料

1年組番

防災の講義内容をまとめよう～水害について～

1千代田町のハザードマップで、大部分が冠水の影響を受けることを知った。

① 自宅は（ m ～ m）の範囲にあてはまる。  
② 千代田町の土地は西から東に行くほど（ ）になっている。西の堤防が決壊して街に流れてきても（ ）日くらいで水はひくが、東で起こると（ ）日以上かかることが予想される。同じ町内にいても、場所によって、  
①②を通して注意すべきこと→

2天気予報で、大雨が降り続くことを知ったら、何をすべきか知った。

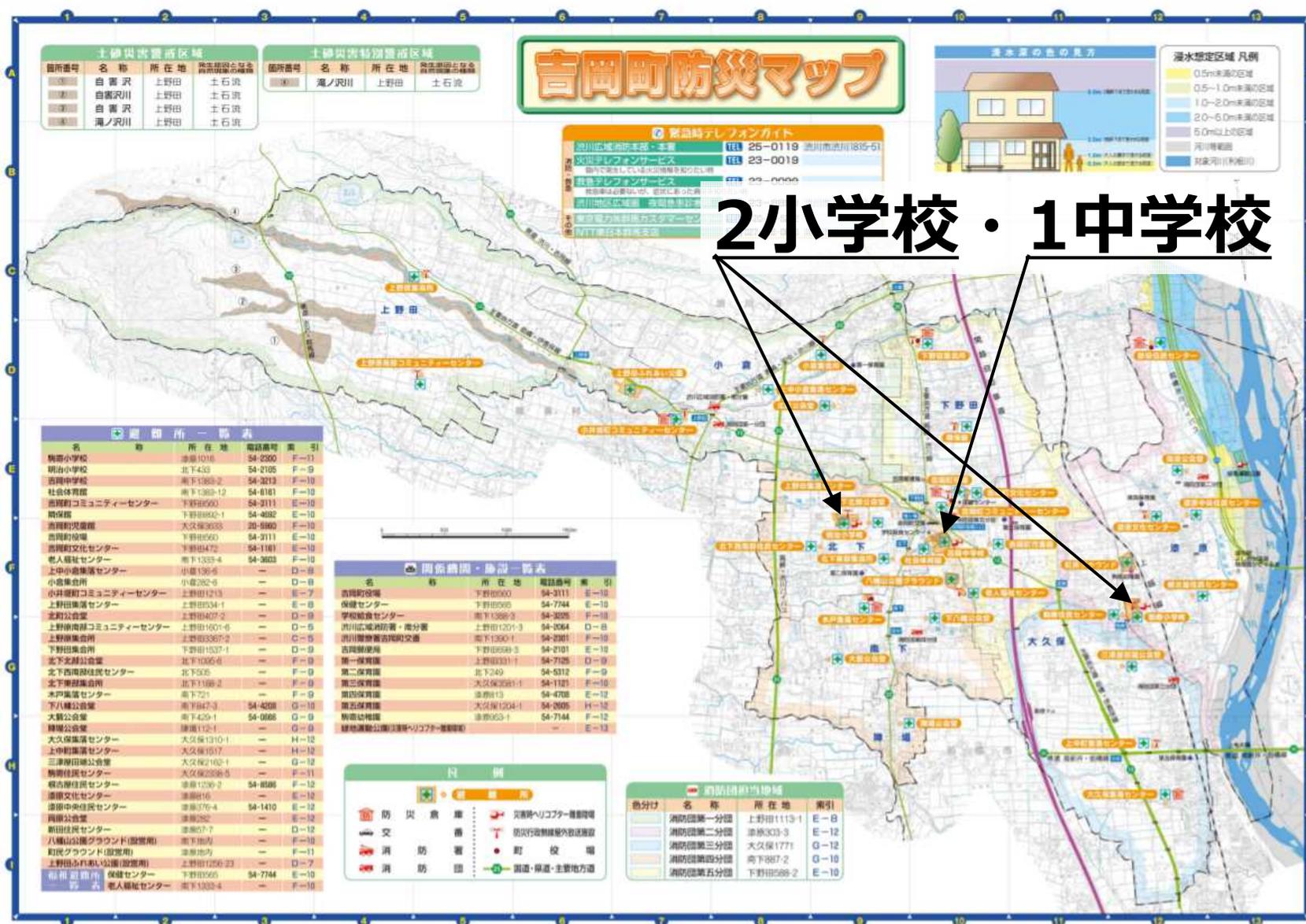
③（ ）をこまめに観て、近隣の天気の情報収集をする。家族の大人と（ ）場所）や（ ）連絡先）をもう一度確認しておく。  
④ テレビの（ ）チャンネルで（ ）を押し、（ ）市の八斗島地点の水域をチェックする。ここが危険水域に達したら、千代田町から避難勧告がだされなくても（ ）を開始する。  
⑤（ ）町）や（ ）町、館林市の東は千代田町よりも土地が低く、避難に適さない。  
③④⑤をふまえて、理解したこと、自分のできること→

今できることは、保護者と、正しく避難できる準備をしておくこと  
家庭で話し合い、2枚↓（自宅用・生徒用）記入。  
2/13（火）までに学校へ提出。ラミネートカバーをしてカードを完成させます。

避難カード		避難カード	
しるい 氏名	緊急連絡先	しるい 氏名	緊急連絡先
住所	避難場所	住所	避難場所
学年/月日	緊急連絡先	学年/月日	緊急連絡先
緊急 連絡先	避難場所	緊急 連絡先	避難場所

振り返り学習の資料

# 平成30年度 群馬県吉岡町における実践



2小学校・1中学校

# 平成30年度 群馬県吉岡町における実践

## ■各校担当教員との打合せを通じて実践内容を検討

- ・各校担当教員との最初の打合せの際に、各校の現状を把握

⇒訓練だけはしっかり時間を確保して実施している状況

- 事前告知ありで教室滞在時に地震が発生することのみを想定していた
- 地震から身を守る行動を十分に学習できるとはいえない状況にあった

⇒ 「地震を想定した一斉抜き打ち訓練」の実施を提案【トップダウン型】

- 町内3小中学校が当日同時刻に実施することでイベント化（継続実施に期待）
- 「校庭での安全確認（点呼）」よりも、地震発生時の身の守り方、校庭までの安全な移動を重視した『振り返り学習』の充実

※平成31年1月8日13:30に実施（実施効果などについては今後検討予定）

# 平成30年度 群馬県吉岡町における実践

## ■各校担当教員との打合せを通じて実践内容を検討

- ・その他、防災教育、危機管理対応などについて何でも相談にのる

⇒小学校：以下の取り組みを担当教員が主体的に実施

- －『危機管理対応マニュアル』の見直し
- －登校班による通学路の安全点検

⇒中学校：『専門家による防災教室』の実施

- －全校生徒660人を対象に、体育館でクロスロードを実施

生徒 ← 普段の生活態度が重要であることを伝える

教員 ← 知識が不十分でも防災を題材とした学習はできることを伝える



# まとめ：実践を通じた成果と今後の課題

---

## ■ 『伴走型』 支援による人材育成

- ・ 数は少ないが、防災に関心のある教員を増やすことができた  
⇒目標は、「1 / 9 人の教員が防災に興味のある教員」

## ■ 個人依存の支援体制の限界と弊害

- ・ 限界：一人で対応できることには限界がある
- ・ 弊害：いろいろな専門家に参加してもらいにくい

# ありがとうございました

**黒巖 賢**

---

kuroiwa-ken@pref.gunma.lg.jp

群馬県教育委員会事務局  
健康体育課 学校安全・給食係

**金井 昌信**

---

kanai@gunma-u.ac.jp

群馬大学 大学院理工学府 環境創生部門  
広域首都圏防災研究センター